# 令和６年度全国学力・学習状況調査における

# 北九州市立　　牧山　　小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、６年生を対象として、令和６年４月１８日（木）に、「教科（国語、算数）に関する調査」、文部科学省が指定した日（４月１０日から４月３０日の間）に「児童質問調査」を実施いたしました。
この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。
学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。
なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

## １．調査の目的

⑴　義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
⑵　学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
⑶　そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

## ２．調査内容

⑴　教科に関する調査（国語、算数）

| 教科に関する調査（国語、算数） |
|---|
| ①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等<br>②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容 |

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

⑵　児童質問紙調査

| 児童質問紙調査 |
|---|
| ○　学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 |

## ３．教科に関する調査結果の概要

⑴　全国・本市の学力調査（国語、算数）の結果

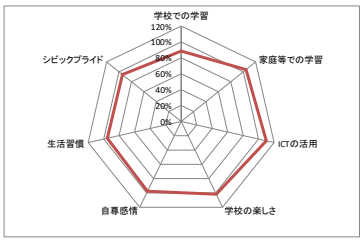
| 本年度の結果 | 国語 | | 算数 | |
|---|---|---|---|---|
| | 平均正答数 | 平均正答率 | 平均正答数 | 平均正答率 |
| 本市 | 9.3 | 66 | 9.6 | 60 |
| 全国 | 9.5 | 68 | 10.1 | 63 |

⑵　本校の学力調査結果の分析

| | | | |
|---|---|---|---|
| 国語 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的に平均正答率は，全国正答率を下回っている。特に「書くこと・読むこと」の領域は，全国平均正答率と比べて，平均正答率が低い。また，記述式の問いに対して，無回答率が高くなっている。一方で，「情報の扱い方に関する事項」の領域や「話すこと・聞くこと」の平均正答率は，全国平均正答率と同程度である。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | 話し言葉と書き言葉との違いに気付くことができるかどうかをみる問い | |
| | 努力が必要な問題 | 人物像や物語の全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることができるかどうかをみる問い | |

| | | | |
|---|---|---|---|
| 算数 | 全体的な傾向や特徴など | 全体的に平均正答率は，全国正答率を下回っている。特に「図形」の領域は，全国平均正答率と比べて，平均正答率が低い。また，記述式の問いに対して，無回答率が高くなっている。一方で，「変化と関係」の領域の平均正答率は，全国平均正答率と同程度である。 | 全国平均正答率との比較<br>下回っている |
| | よくできた問題 | 数量の関係を、□を用いた式に表すことができるかどうかをみる問い | |
| | 努力が必要な問題 | 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述できるかどうかをみる問い | |

## ４．学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問調査結果の概要




| 質問調査の結果分析 |
|---|
| ・「友達関係に満足しているか」「先生は,よいところを認めてくれいるか」の問いに対して約90%の児童生徒が肯定的に回答している。一方で,「自分にはよいところはあるか」の問いに対して肯定的な回答は約70%である。他者から認められることで,自己肯定感を高めることができているが,児童自身が自分のよさを価値付けられていない。<br>・「授業では，課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたか」の問いや「学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげることができていたか」の問いに対する肯定的な回答の割合が低い。学習に対して,主体的に関わろうとする意識を高められていない。 |

## ５．調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

①　教科に関する取組

児童が主体的に学びを進めていくことができるように，また，自己の学びのよさを感じられるように，学習計画を見直したり，ICTを活用した授業スタイルを進めたりすることで，児童の学習への興味関心を高める。読書活動を推進し，読書の感想を話したり，書いたりする活動に取り組む。また，文章表現の効果について児童が興味をもって学習できるように努める。

②　家庭生活習慣等に関する取組

学校だよりや学年だより，懇談会等を通して，本校の取組や学習の課題を保護者に周知し，啓発を行う。また，家庭での学習習慣について，保護者と連携しながら，継続的に児童に指導していく。